

# 議会質問

## ◆◆予算等審査特別委員会 健康福祉費◆◆

(令和4年2月28日)

### ◆乳がん検診の検診体制を受診者目線の見直しを求めました!

Q: 平成28年2月、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正について」の国の通知は「乳がん検診の視触診は推奨しないが、仮に実施する場合は、マンモグラフィと併せて実施すること」である。この改正を受け、本市の乳がん検診は40歳～69歳はマンモグラフィと視触診の併用検診を継続している。どのような理由で併用検診を実施しているのか、視触診についての見解も伺う。



A: 市としては、国の指針を踏まえつつ、医師等の専門家で構成される乳がん検診精度管理委員会において、平成29年度に検討を行なっている。そこで意見を踏まえ、40歳以上については、それまで実施していた視触診とマンモグラフィの併用による検診を継続することにしたのである。

Q: 本市の検診方法の流れは、マンモグラフィ撮影の医療機関で撮影後、その画像(B4程度の大きさ)を持って、視触診の医療機関で検診を受けることになっている。2つの医療機関に行かなければならぬ。働く世代から、「同一病院で検診が受けられないか」との声が毎年のように寄せられ、今回の質問にあたって行なった聞き取り調査でも多く聞かれた。乳がんの早期発見、受診者の利便性向上の取り組みとして、国の通知にあるように、触診についての有効性を含め、もう一度、検診体制のしくみを検討していただきたい。

A: (健康福祉局長)市民が検診を受診しやすい環境づくりも重要であると認識している。引き続き、受診者の利便性といった観点も十分に踏まえながら、具体的な手法も含め、精度管理委員会や健診団体などの関係機関と検討を重ねてまいりたい。

Q: 40代、50代は仕事、子育て、介護等、家族のことが優先で自分のことは後回しになりがちの世代である。しかし、その世代が罹患が多い状況である。横浜市のように、選択制導入やマンモグラフィのみを希望できるようにと思う。検診場所については、受診者側に立って1か所で受けられるように改善すべき。

A: (都市長答弁)これまで、受診者の負担軽減を図る観点から、70歳以上の方について、受診を一ヵ所で完結できるよう見直すなどしてきたところである。今後、これをさらに他の年齢層へ拡大することを含め、専門家や関係機関とも検討しながら受診しやすい環境の整備に努めてまいりたい。

### ◆その他の主な質問項目

◎「ブレスト・アウェアネス」の普及啓発

◎新生児誕生祝福事業の対象拡大

カタログギフト(3万円相当)の品目について、市図書館の新規事業「赤ちゃんと絵本のふれあい事業」の案内とともに絵本を加えること。  
地域ブランド「都の杜・仙台」企業への働きかけ

◎育児ヘルプ家庭訪問事業・産後ケア事業の周知強化、子育て関係の申請のデジタル化

◎在宅の重度障がい児者の災害対策について

・人工呼吸器やたんの吸引等を必要としている重度障がい児者にとって、災害時等で停電が発生した際、電源の確保は命を守るために大変重要である。自家発電機とバッテリーの補助を求める。

・福祉避難所の事前登録制

\* 国の「令和3年度市区町村におけるがん検診の実施状況調査 全国集計」によると、視触診を実施しているのは27.5%。前回調査した平成28年度の83.5%から大きく下がっている。国の改正に準じて全国的に触診が廃止の方向になっている

こちらから予算等  
審査特別委員会の動画が  
ご覧になります



\* ブレスト・アウェアネスとは：自分の乳房の状態を日々から関心をもち、乳房を意識して生活することで、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療につながる女性にとって、とても重要な生活習慣のこと

## ◆◆都市整備建設委員会◆◆

(令和4年1月21日・2月22日)

### ◎安全・安心を支える地下鉄の施設について

地下鉄のバリアフリーの取り組み、防犯カメラの設置、防犯訓練、非常通報施設の市民への周知強化、車いす対応の券売機整備、市営バスの上屋及びベンチ設置状況と宮城交通への働きかけ

### ◎宅地擁壁の安全対策工事に係る支援制度について、管理組合や企業等へ対象拡大、所有者への丁寧な対応、個別通知も含め周知強化

令和4年度の新規事業(拡充・継続)で実現!

## 皆さまの声をカタチにしました!

■コロナ感染の影響を受けた事業者(個人事業者・法人)支援の「中小企業等事業復活支援給付金」が売上高減少率50%以上→30%以上50%未満へ対象拡大

### ■新生児聴覚検査費用助成

山口津世子前仙台市議会議員が約20年前から取り上げ、宮城県・仙台市内で署名活動を展開し求めてきたものです

■産後ケア事業の支援期間が生後4か月から生後1年までに延長。サポートがショートステイとデイサービスに加え訪問型を導入。

■いずみ墓園内に新形式墓所(合葬型)整備 貸出開始は令和5年度予定

■ご遺族サポート窓口設置 全区・総合支所で開設

■産後ケアの申請手続きの電子化

■新生児誕生祝福事業

■若年・子育て世帯住み替え支援事業

■生理用品の配布や相談事業など  
困難を抱える女性への支援



### 東北大学の最先端技術・研究を視察

1月11日、「新型コロナウイルスの下水疫学調査の技術開発と実用化の現状」北海道大学大学院工学研究院環境工学部門 北島正章准教授、「感染症適応社会の確立に向けた下水水質情報の活用に関する取り組み」東北大学大学院工学研究科 佐野大輔教授の講演。下水調査でコロナ感染陽性者数を予測。その情報を発信している。仙台市南蒲生浄化センターで採水している。

4月8日、東日本大震災からの創造的復興に向けて、2012年に設立された「東北メディカル・メガバンク機構」を視察。東北メディカル・メガバンク計画の進捗状況、「ナトカリチャレンジ」の取り組みについて。

\* ナトカリ比: 塩分(ナトリウム)と野菜・果物摂取(カリウム)のバランスを表す指標

